

目的に合わせて要約する

「くらしの中の和と洋」

4年1組

1 単元の目標と評価規準

目標：自分の考える和室と洋室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方を理解している。	① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	① すすんで文章を要約し、学習の見通しをもって、まとめたことを伝え合おうとしている。

2 教材について

終 わ り	中											始 め		
	違いとそれによるよさ													
	Ⅱ 部屋の使い方				Ⅰ 過ごし方									
⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
よびかけ	まとめ	答：和	答：洋	話題	洋のよさ	答え	和のよさ	答：和	問い	説明	話題	説明 和室と 洋室の	(問い)	話題 提示
日本では、くらしの基本である「衣食住」のどれにも、「和」と「洋」が入り交じっている。 ここでは、「住」において、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えてみる。 和室と洋室の最も大きな違いは、ゆかの仕上げ方とそこに置かれる家具であり、このちがいが、それぞれの部屋での過ごし方や部屋の使い方の差を生み出す。 まず、それぞれの部屋の中で「<u>過ごす</u>」の<u>こと</u>を考えてみる。 和室では、たたみの上に直接座り、洋室では、いすにこしかけて座るのがふつうだ。 和室、洋室での過ごし方には、それぞれどんな<u>よさ</u>があるのでしょうか。 和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができる（よさがある）。 人と人との間かくが自由に変えられるの④<u>たたみのよさ</u>である。 洋室で使ういすは、形が工夫されているので、長時間同じしせいですわっていても、つかれが少なくてすむ（よさがある）。 いすにすわっているじょうたいから、次の動作にうつるのがかん単であること⑥、<u>いすのよさ</u>である。 次に、<u>部屋の使い方</u>という点から、それぞれにどんなよさがあるか考えてみる。 洋室は、その部屋で何をするかがはつきりしていて、そのために<u>使いやす</u>くくられている。 これに対して、和室は、一つの部屋をいろいろな目的に使うことができるという<u>よさ</u>がある。 <u>このように</u>、和室と洋室には、それぞれよさがあり、わたしたちは、両方のよさを取り入れてくらししている。 「衣」や「食」についても、くらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのよう に生かされているか、考えることができるだろう。														

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれのよさを、「過ごし方」と「使い方」という2つの観点に沿って対比しながら説明した文章である。そのため、比較を通して、どのような場面で、和室、洋室のそれぞれのよさを生かせるか、自分の生活と結び付けながら考えることができるようになっている。

3 単元計画(全7時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	和と洋について、興味をもち、初発の感想を書くことができる。	○ 挿絵を分類する「仲間分けクイズ」を行い、教材文に興味をもつ。 ○ 範読を聞き、内容の大体を知る。 ○ 和室と洋室のどちらが好きか、初発の感想を書く。
第二次	2	「和室」と「洋室」に着目し、文章をまとまりに分けることができる。	○ 感想を交流する。 ○ 「和室」と「洋室」が書かれている段落を見付ける。(音読、色分け) ○ 文章をまとまりに分ける。
	3	文章の構成を捉えることができる。	○ 問いと答え、接続詞に着目し、はじめ、中、終わりに分ける。 ○ 中を2つのまとまりに分ける。 ○ 段落ごとに小見出しを付ける。
	4	文章の内容を捉えることができる。	○ 「和室」と「洋室」それぞれの過ごし方、使い方のよさを要約し、表にまとめる。
第三次	5 2組 本時	生活と結び付けて、「和室」と「洋室」それぞれのよさを生かす場面を考えることができる。	○ どのよさを生かせるか、経験が書かれたカードを表に分類する。 ○ 自分の生活の中で、和室と洋室のよさを活用できる場면을挙げ、紹介文を書く。
	6	文章の中から選んだ部分の要約を見直し、紹介文を書くことができる。	○ 紹介したい生活経験に合わせて、要約を推敲する。 ○ 紹介文を完成させる。
	7 1組 本時	要約の仕方についてそれぞれの考え方の違いに気付き、考えを広げることができる。	○ 紹介文の生活経験の部分を読み上げ、文章のどこを選んだのか考え合う。 ○ 紹介文全文を読み合い、生活経験や要約の相違点を見付け合う。

4 全力参加のための手立て

クイズ、選択肢

考えることや視点を焦点化し、楽しみながら学習に参加する。

→文の内容理解

分類

内容ごとに段落を色分けしたり、表にまとめたりして、書かれている内容を整理する。

→文の構造理解

5 本時の展開(全7時間中の第7時)I組

本時の目標： 紹介文を読み比べる中で、要約の仕方についてそれぞれの考え方の違いに気付き、考えを広げることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ・▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 1分	1 本時の流れを把握する。		
展開1 15分	友達は何色を選んだのか、考えよう。 2 何色を選んだでしょうクイズをする。 ・出題者は、紹介文のうち「生活経験」の部分を読む。 ・回答者はそれを聞き、出題者がどの部屋のどのよさを選んだのか考え、一斉に“部屋のよさ表”を指差す。 出：私が暮らすなら～室が良いです。なぜならば、私は遊ぶ部屋と勉強する部屋が分かれていた方が、勉強に集中しやすいからです。 回：「部屋が分かれる」から、洋室だと思う。 回：「遊ぶと勉強する」それぞれ目的に合わせるから、「洋室の使い方のよさ」だと思う。	・グループの机の上に、色分けした“部屋のよさ表”を置く。 【共有化・視覚化】 ・“部屋のよさ表”には、第二次までに読み取った和室と洋室のよさを書いておく ・グループを変えて、複数回行う。	友達の生活経験や思い描く将来を根拠に、どの部分を選んだのか考えようとしている。 (記述・発言)  考えたい  伝えたい
展開2 15分	要約を比べて、ちがいを伝え合おう 3 「要約」の部分比べる。 T: 同じ色を選んだ人同士、要約の部分は全て同じ？違う？どんな違いや工夫がある？ C: 私は「食事をする…」の3つの例を「いろいろな」という言葉に置き換えた。 C: 私は「テーブルや…」の4つの例をまとめて「家具」という言葉に置き換えた。 C: 私は洋室を“使う”立場だから、「その	・同じ色を選んだ児童同士で2～3人グループを組ませ、紹介文の要約部分を読み比べる。 【共有化・焦点化】 【ゆさぶり発問】 ▲視覚的に捉えられるように、まなボードに原文を挟み、どのように言葉を削り、それらをどのようにつないだのか書き込むようにする。	紹介文を読み比べる中で、要約の仕方についてそれぞれの考え方の違いに気付き、考えを広げようとしている。 (記述・発言)

	ために～つくられて…」の部分は削った。 4 比べて気付いた「要約の仕方の違いや工夫」について共有する。	▲それぞれが考えた生活経験をヒントに、削ったり加えたりした部分が違う理由を考えるようにする。	 伝えたい
まとめ 12分	5 単元全体の学習を振り返る。 T:単元全体を通して身に付いた力を確かめましょう。 C:紹介文を書くときは、自分の生活とつながる部分を選んだ。 C:要約するときは、まず中心文を決めて、大事な言葉を付け足したり、いらぬ言葉は削ったりした。 C:文の言葉を違う言葉に言い換えたり、短くまとめたりすると、より伝わりやすい要約になった。 C:選んだ部分が同じでも、理由にした生活経験が違っていると、要約文も違っていった。	・「よさを紹介する文を書くのに、本文を要約するのはなぜか」、「要約はどのように行うのか」、「選んだ部分は同じでも、要約の仕方が違っていったのはなぜか」などについて、振り返るようにする。	

6 板書計画

紹介文比べ大会

① 友達は何色を選んだのか、考えよう。

〈何色を選んだでしょうクイズ〉

① 出題者は、紹介文のうち「私が過ごすなら○室が良いです。なぜなら」を読む。

② 回答者は、セーので色を指差す。

③ 出題者が正解発表。

理由の部分ヒントに考える。

② 要約を比べて、ちがいを伝え合おう。

〈同じ色同士で比べタイム〉

① まなボードに紹介文をさして、読み比べる。

② 要約のちがいを探す。

③ なぜ違うのか考える

③はチャレンジ!どうやって要約したのかで比べてみよう!

③ 単元全体の振り返り

・ 紹介文を書くときは…

・ 要約するときは、まず…

・ するとより伝わりやすい要約になった。

・ 自分と要約の仕方が違う人がいた。それは…

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。